

編 集 後 記

* 本号には、新スタッフとして赴任二年目の阿部克彦講師をお迎えできた。阿部先生は、本学部ではフランス語を御担当であるが、本号には御専門のイスラーム美術史にかかわつての論文をお寄せ下さった。うれしいことである。

* 五名の方々が稿をお寄せ下さり、まことに充実した号となった。編者として、大よろこびしている。

* 本研究会のメンバーではないが、経営学部創設以来、英語を御担当でいらつしやつた齋藤誠毅先生が、三月で御退任になられる。学部創設以来のメンバーがだんだん少なくなつていく。淋しいことである。

* 経営学部のスタッフも、すっかり若返つた。社会科学、人文科学に限らず、それぞれの分野の学問において、もつともエネルギーに研究成果をあげることができるのは、やはり三、四十代であるように思われる。大いに切磋琢磨していただきたい。

* 私も、いくつかの研究テーマを抱え込んではいるが、雑事にかまけて活字化することを放擲^{ほうてき}している。今号もパス。反省しきり。学会で発表したきり、そのままになつているものが三つもたまつてしまった。五十代では考えられなかったこと。

* 「麒麟」は、神奈川大学経営学部における人文科学系教員の研究発表の牙城。本号で十五号になった。創刊号から編集にかかわっている私としては、感慨少なからぬものがある。今後とも地道な努力を続けていきたい。スタッフの皆様の御協力をお願いしたい。
(鬼ヶ城)